

世界文化遺産「シドニーオペラハウス」の魅力に迫る！

シドニー事務所

2013 年 6 月 26 日、富士山が世界文化遺産登録された。今まで以上の知名度と魅力の向上が期待される場所である。

時同じくして、このほど著者もオーストラリアの代表的な世界文化遺産であるシドニーオペラハウス（以下「オペラハウス」）を訪ねる機会を得た。「人類の創造的才能を表現する傑作」という基準を満たし、遺産登録されたオペラハウスはその外観で人々を圧倒するだけでなく、精力的に文化パフォーマンスを提供している。

日本を代表する“アイコン”が世界文化遺産登録されたタイミングにあわせ、オーストラリアの“アイコン”、オペラハウスの運営形態や財政状況などを紹介していきたい。



1 オペラハウスの概要

- 設計者：デンマークの建築家 Jørn Utzon（ヨーン・ウツソン 1918-2008）。

1959 年に着工。1963 年の完成を目指して工事が進められていたが、その複雑な形状・デザインのため予想以上の出費と工事の遅れが生じ、当初の予定を大幅に上回る 10 年後の 1973 年ようやく完成した。

- 構造：建物面積＝1.8 ヘクタール

コンサートホール、オペラシアター、ドラマシアター、プレイハウス、エキジビションホール等の他、リハーサルスタジオや展示ルーム、7つのバー・レストランで構成。

- 建築費用：1 億 2 百万オーストラリアドル
- 世界文化遺産登録日：2007 年 6 月 28 日

2 管理運営

オペラハウスはニューサウスウェールズ(NSW)州政府が所有しているが、「the Sydney Opera House Trust Act 1961（以下「Act」）」に基づき設置された「シドニーオペラハウストラスト（以下「トラスト」）」に管理運営が委任されている。

トラストについて、Act に定められている主な内容は次のとおり。

- 目的：オペラハウスの維持管理、施設や会議室の管理、新しいエンターテイメントの研究や調査など。
- 構成員：NSW 州総督が、NSW 州芸術相により推薦された者の中から任命する 10 名で構成。3 年が任期で再任も可能。ただし、4 回連続の任期は不可。
- 理事長：NSW 州総督が、構成員の中から NSW 州芸術相により推薦された者を任命。

3 特徴的なサービス

(1) 多言語のガイドツアー

アジア圏からのビジターが増加した調査結果に基づき、2006 年 1 月から韓国語、日本語、中国語のガイドツアーを開始している。

1973 年から英語のガイドツアーを実施し、年間約 25,000 人前後の参加者を獲得するこの企画を拡充することになった背景は、ビジターを出身国別に見たときに日本人、韓国人、中国人がそれぞれ 4 位、5 位、6 位を占めたことによる(2004/05 年度実績)。中国語は中国人だけではなく、台湾やシンガポールからの参加者もターゲットとされており、好調な中国経済の影響もあり、ビジターの動員につながっている。

(2) 先住民との調和

オーストラリアの先住民はアボリジニー民族とトレス海峡諸島民族であるが、ヨーロッパ人が入植後、土地や権利の剥奪など、様々な迫害を受けてきた。1960 年代から先住民の地位向上のための運動が活発になり、差別を禁止する法律の制定や土地権の回復を認める最高裁の判決が出るなど、先住民を取り巻く環境は改善されつつあるが、教育水準が低いなど、依然として課題が残っている。

そのような中、オペラハウスは 2011 年 7 月に「Reconciliation Action Plan (調和への行動計画)」を発表している。プランでは、先住民とその他のオーストラリア人の関係を強化し、先住民の芸術コンテンツや入場者数の拡大、教育と雇用の機会の増加、文化的意識の向上を目指している。プランに基づくプログラムとして、先住民の文化を紹介するフェスティバルを開催するほか、NSW 州教育省のアボリジニー教育部門と協力して先住民の高校生を約一週間インターンとして引き受けるなど、様々な企画が実施されている。

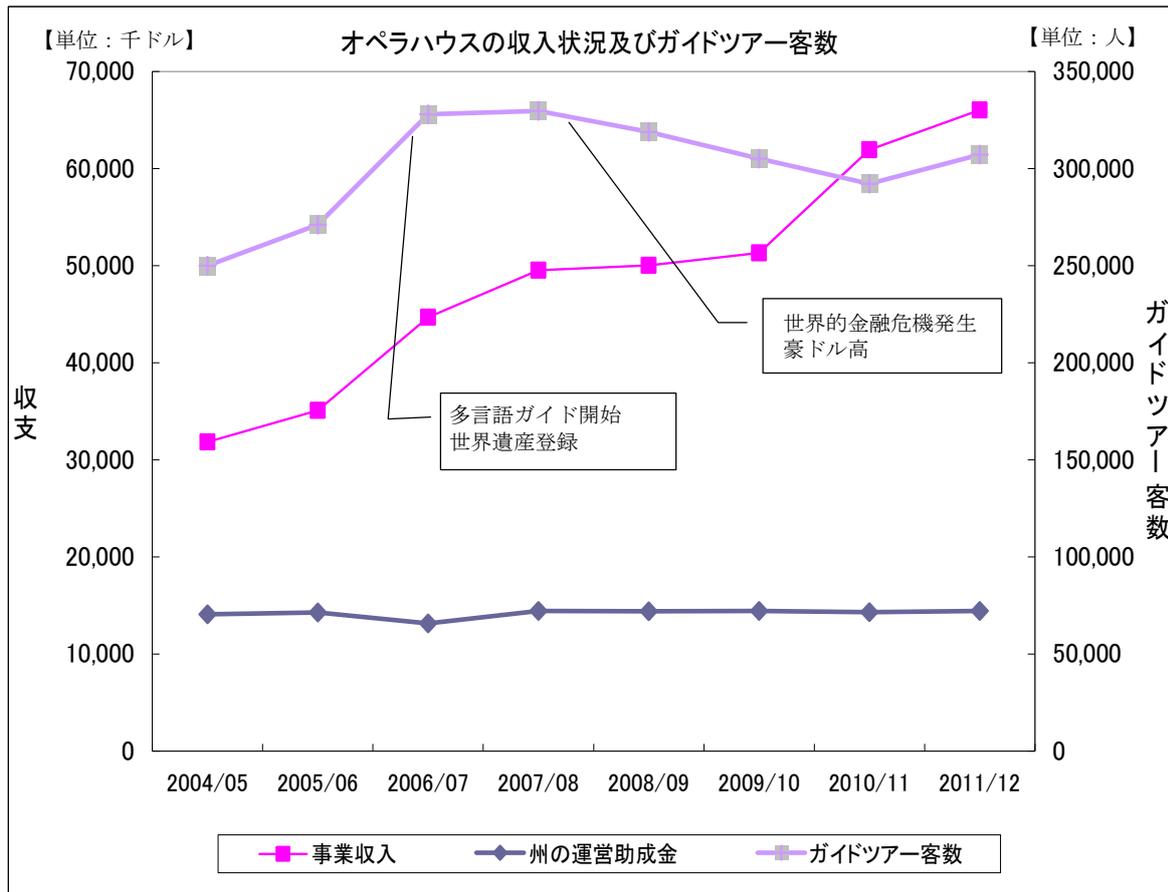
(3) 教育プログラム

年齢にあわせた様々な教育プログラムを提供している。演劇・バレエ・映画鑑賞は元より劇の構成、映画製作、演技などを通じ、その教科は音楽、創造芸術、英語などに及ぶ。

更に、遠隔地に住んでいる学生のために、「デジタル教育プログラム」としてビデオ会議設備を介してオペラハウスのプログラムを体験することができる無料サービスも用意されている。会場とクラスを生中継でつなぐので、質疑応答にも対応できる。

4 財政状況

事業収入と州からの助成金を主な財源として事業運営がなされている。また、事業収入は年々上昇傾向にある(次ページグラフ参照)。収支の均衡を保つために支払われている助成金がほぼ一定に推移しているにもかかわらず、事業収入が右肩上がりなのは、[VIVID Sydney](#) をはじめとした各種事業を積極的に行っている成果の表れである。この事業収入の多くを企画制作収入(Production revenue)が占めているのだが、その数値が増加傾向にあることがその裏付けと言えよう。



注) 2011/12 年は見込み数値。

5 オペラハウスの貢献

なぜ多額の公金を投入し続けるのか。

その答えは、2010年にNSW州が1億5,200万ドルをかけて改良工事を行うことを発表した際の財務相発言に求めることができる。

「この工事は州の将来への投資である。単なるオーストラリアの象徴を改善するだけでなく、我々の経済を将来的に保証する。オペラハウスは毎年、観光業、飲食業、宿泊施設などのオーストラリア経済に10億ドルをもたらしている。(2010年NSW州ローゼンダール財務相)」

発言のとおり、オペラハウスは毎年740万人の観光客を有しており、また12,000件の雇用も生み出している。NSW州経済の中で、必要不可欠な存在となっているのである。

シドニーはオリンピック開催の2000年以來、ほぼ毎年、世界の観光地ベスト10に選ばれてきた(観光分野で世界一の発行部数を誇る米国の雑誌「トラベルプラスレジャー」発表)。

オペラハウスがシドニーの最大の観光資源として貢献していることは言うまでもない。

(平澤所長補佐 広島県派遣)